

# Management Club Report

May.2022/Vol.233

## Monthly Opinion 《変化の中にフォローの風を見る》

2年有余年も続いてきたコロナ禍によって、ワークスタイルやライフスタイル、そしてコミュニケーションスタイルまでもが変わってしまうのではないかと観方があります。

また、そのような中で引き起こされたロシアによるウクライナ侵攻は、国際社会の秩序に大きな変化をもたらし始めていますし、戦後77年、平和を保持し続けてきた我が国の安全意識にも少なからぬ変化をもたらそうとしています。

コロナ対策がもたらす人間社会への様々な悪影響については、まだ表れてはいないものの、例えば長期間のマスク着用による小児の精神発達障害が危惧されています。人の感情を表情の変化によって理解することで対人関係を学び社会生活の基礎を築いていく子供たちの発育が歪なものになるのではないかとこの指摘があります。私は教育者でも心理学者でもありませんが、この指摘に対してはそのとおりではないかと、大きな危機感を抱きながら納得してしまいます。

人間社会は常に変化をしながら発展してきました。今の変化はまだ逆風であり、発展の芽も吹いてはいませんが、このトンネルを抜け出せば、大きな光を捉えるであろう人間の叡智を信じたいと思います。今は大きな発展をもたらすための天から与えられた試練であるのかもしれませんが。今一度長いスパンで時代の変化を振り返り、明るい風を捉えるために今はいかにあるべきか、何を為すべきかについて考えてみたいと思います。

1

### 変化への対応によって生まれるプラスとマイナス

#### 対面コミュニケーションを避けることの弊害

目から下が隠されてしまうマスク着用の影響は、小児の精神発達障害という限られた範囲での問題に留まるだけではありません。大人社会における対人関係にも少なからぬ悪影響を及ぼしています。

表情が分からないために相手の気持ちをつかみきれないのは小児と同じで、円滑なコミュニケーションを阻害しています。できるだけ対面を避けるということでオンラインやメールによる伝達が主流になったこともその弊害を助長しているように感じられてなりません。

メールは、相手の都合に関わりなく飛び込んでくる直接対話や電話に比べると相応のメリットがあることは事実です。現に多くの企業の『お問い合わせ』が電話ではなくネット通信に変わっており、電話番号の記載がHPから消えてい